



通年コース第三・四回開催報告

「施業診断・樹木分類」

『様々な森、いろいろな樹』

色鮮やかなツツジ類の花
期や芽吹きのごわめきも過
ぎ、少し落ちてきてきたよう
な感じの山では、今、白く可
憐な、樹に咲く花をみつけれ
ることができます。

前回の測樹調査をしたヒ
ノキ林でも、クロモジやコ
バノガズミの花が咲きは
じめています。もしも、あな
たが、この森の山主だった
なら・・・直径や樹高を問診



丸太の直径は、樹皮を除いて測ります

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 坂野慎治
題字 島崎洋路



保残木、マーキング

して健康診断をした結果と目
指す森の姿から、今後の施業
の方針を作ってみましょう。
大径材生産を目指した資源林
としての施業。やや強度の間
伐を繰り返しながら、混交林
へ誘導できないか。親林公園
として整備していくなかで、
灌木類や広葉樹を育ていき
たい。・・・十人十色。様々
な森。

そして、いろいろな樹葉つ
ばの検索で、名前を覚え、特
徴や性質を知る。検索は：
単葉・複葉・対生・互生・全
縁・鋸歯・・・専門用語に感
わされないで、分岐点へは、



3mで・・・直径を・・・



いつでも戻れる。時には、写
真で絵あわせし、解説文も
参考に。漢字の和名は、いと
おかし。一つわかれば、科属
がわかる。また、名前がわか
れば、枝を広げた樹形やゴ
ツゴツした幹、いろとりど
りの花や実、変わった形の
冬芽など、時間を忘れて図
鑑に見入ることになる、か
も。

覚えた名前を忘れないた
めには、マイ散策マップを
作ったり、スケッチをした
り、標本を作ったりするとい
いかもしれません。簡単
なところでは、採ってきた
葉をスキヤナーでパソコン
へ。そう、樹を身近に感じる
ように。一枚の葉から、樹が
森に、森が山へとひろがっ
ていく。



アインシュタイン・ショック？

8時30分

5月20日(金)
施業診断

通年コース第三・四回

島崎先生の山小屋に集合。
早川講師の挨拶。日程説
明のあと、早川講師によ
る施業方針の立案につい
ての講義。測樹データの
復習から再度、現状を確
認して、地位指数で樹高
成長を予測しながら、将
来を考えてみます。

9時30分

休憩後、各班に分かれて
施業方針を策定する。大
径材生産を目指した資源
林としての施業。やや強
度の10年間隔間伐を繰り
返しながら、混交林へ誘
導できないか。親林公園
として整備していくなか
で、灌木類や広葉樹を育
んでいきたい。といった

5月21日(土)
樹木分類

8時30分

鳥崎先生の山小屋に集合。講師挨拶、日程説明など。

8時40分

分類用語の説明や保育社の検索図鑑を使った、葉の検索方法について、早川講師に説明して頂く。

9時40分

公園にて、各班毎に検索の実習。検索表を行きつ戻りつしながら、サンプルの12種類の葉を検索。つる性、単葉、複葉、互生

対生、全縁、鋸歯・・・。漢字は体をあらわす？

12時

昼食。今日も、いい天気なので、公園の芝生のうえで昼食をとったり、付近を散策したり、思い思いに過ごす。

13時

車に分乗して鳩吹山へ向かう。着後、駐車場周辺の樹々を観察。ミヤマザクラが白い可憐な花を咲かせている。ミヤマヤシヤブシの実は、「まっくろくろすけ」を小さくしたみたい？

11時40分

各班の施業方針を発表してもらい、早川講師から講評を頂く。

12時

昼食。栗栖さん、差し入れありがとうございました。

13時

測樹調査をしたプロットにて、施業方針から算出した数の保残木をマーキング。そして、間伐後の森をイメージしてみる。

14時10分

早川講師による丸太の材積の求め方講座。末口二乗法。丸太材積は、細い方の断面の、樹皮を除いた直径を二乗して、さらに長さを乗するのが基本。単位はmとすることを忘れない。

14時45分

小屋周辺の丸太や公園の立木で、実際に丸太材積を求積してみました。

15時40分

質疑応答、諸連絡のあと、講師講評。

16時

終了、解散。



複葉は、根元がぶっくり、小葉はすんなり？



のこぎりみたいな鋸歯かあ～



松井のバットだ、アオダモだ

14時

樹木散策開始。山頂へと続くカラマツの林には、背の低いクロモジや果穂をつけたミズナラなどがみられ、林床は、やわらかな緑色に覆われている。また、頂上付近にはタムシバが、下りの林道沿いでは、ウダイカンバやヤハズハンノキなどが観察できる。

15時40分

散策を終了し、小屋へ戻る。

16時

講師総括、次回の講座概要など諸連絡。

16時15分

一応終了、解散。終了後、小

屋横の広葉樹林観察会が開催されました。

参加者/遠藤さん、熊木さん、栗栖さん、小林さん、下崎さん夫妻、中神さん、松岡さん、園田さん、斎藤さん親子、長坂さん、田村さん
講師/早川講師
スタッフ/後藤、藤原、平林、坂野



次回以降の予定

第五回 6月17日(金)

下草刈り

4月に植林をした小さな苗は、草本や灌木に埋もれてしまいそう。なので、日当たりや風通しをよくしてあげましょう。造林鎌や手鎌で、枝や幹を切らないようにしながら。

8時30分、島崎先生の山小屋に集合。造林鎌をお持ちの方は、ご持参下さい。刃の研ぎ方や刈払機での作業体験も予定しています。

第六回 6月18日(土)

伐木造材

チェーンソーを使って、木を伐り、枝を払って、材を造る実践です。チェーンソーの始動方法から玉切りの練習、そして、伐倒。また、チェーンソーの目立てや手入れもやってみましょう。8時30分、島崎先生の山小屋に集合。ナタ、ノコ、ヘルメット等をお持ちの方は、ご持参下さい。また、マイチェーンソーを使いたい、その手入れを試みたい方は、お持ちください。

専門コース第二回開催

6月30日(木)

7月2日(土)

今回は、平地林でしたので、今回は傾斜のある林での伐倒を予定しています。8時30分、島崎先生の山小屋に集合。

できる。日本酒がすすみます

葉や花からは想像できないけれど、材になるとこれが実におとなしい。加工しやすく狂いも殆どないので、版木には最適。年賀状の量は今はもっぱらパソコンですが、灰緑色の板に、昔、謹賀新年などと彫りませんでしたか？

ニセアカシア。本人が、自分がどう呼ばれているか知ったら、親戚のイヌエンジュとともに憤慨すること間違いなしの気の毒な名前です。でも西田佐知子や石原裕次郎が唄に込めてくれたので日本ではメジャーになりました。もっとも「ニセ」抜きですが。まあ「ニセアカシア」の雨に打たれてこのまま死んでしまいたい。ではとてもあの人は涙を流してくれませんかねえ。

その下で「あの娘(こ)がそっと 顔を拭いた」

という花は房状で甘い香り。ミツバチがたくさん集まってくるのも肯けます。過ぎ去った夏を思い起こさせる、同じ豆科のクズにも似て、これが初恋の香りなのでしょうか。

ではその材はというと、色は黄褐色で豆科の癖に(偏見かな?)なかなか硬くて重厚感がある。そして匂いは期待に反して、青臭い独特の匂いです。これも青春の「コマ」を連想させるかもしれません。

アカマツと同じく、枝階を形成して上に伸びるミズキも、ちょうど今ごろの白い花です。それぞれの階の葉の上には花の咲く様は、色分けされたウエディングケーキのよう。材は白く柔らかいので、こけしなどに使われるとか。

春から夏に伐採するとその名の通り、樹液が激しく滴り落ちます。そして、しばらくすると、これが固まって切り株がオレンジ色になる。崇られそうであつと不気味。

ミズキと兄弟分のヤマボウシも今頃の白い花。まあ、樹冠の上に綿帽子をかぶったように見事に咲きまします。嬉しいのは秋になるとこの実が食べられること。保科先生は甘酸っぱいこの実を果実酒にされています。そして渋い紅葉と三拍子揃って庭木や街路樹むきの木です。さらにミズキと違って偉

いのは(これも偏見)材が硬くて弾力があること。諏訪の御柱用モミの木を伐り倒す時には、これをクサビとして使うと聞いたことがあります。

小屋横の広葉樹林に咲いていたアオダモ(コバノトネリコ)も白い花。ヤンキースの松井選手のバットはこれだそう。ウェールズではこの花の下で恋人達が語り合います。(とねりこの森)

エゴノキもそろそろ咲く初夏の白い花。今年も植林地に使わせてもらった西春近の下殿島区有林。山火事後ぞろぞろと生えてきたのは、イヌザンショウやクロモジ、リョウブやサクラ類を抑えて圧倒的にエゴノキが多い。

タネが好物というヤマガラが畑にして蒔いたのかも知れない。数本から十本くらいの株立ちになっていて、刈り払い機で刈るのに苦労しました。

五つに分かれた小さなかわいらしい花が下向きにびっしりついて、この時期だけはこの木に見とれてしまいます。秋になると五ミリくらいの種がついて、お手玉の材料にした覚えがあります。不器用だから上達はしなかったけれど、とても使いやすいお手玉でした。材は白く柔らかいので口くろ細工に使われ

るそうですが、そんなに太いエゴノキは見た覚えがないのは、寿命が短いのかもかもしれません。

子供の頃この木にお世話になったのは、踏み網の手。

小川に行つて小鮒や鯉の子を捕るU字型の網ですが、直径二センチくらいのところを一間の長さに切り、Uの字に曲げて縄でとめておく。乾けば間口六尺の網の手が出来る上がりです。水に特に強いわけではありませんが、曲げやすく、なにしろ手触りが抜群。今でも夏になると子供を連れて、その辺の田んぼの水路で魚を追いかけます。もちろん踏み網の手はエゴノキの自家製です。

コナシやウツギ、野イチゴの仲間、ドウダン、ガマズミなど白い花は数え切れませんが、中学校の担任の先生が歌ってくれた「白い花の咲く頃」の白い花はどれだったのでしょうか。



豆知識 やま・もり 「白い花の咲く頃」



春先の黄色い花の時期も過ぎ、エドヒガンやソメイヨシノもすべて散った伊那界隈の山では、今白い花がそこそこに見られます。

まずはご存知水オノキ。高木になるので、その花を目の当たりにする機会はなかなかありません。あまりにも非日本的な花の派手さ加減は

花もデカければ葉もデカい。周りの迷惑を顧みないデカさですが、多少の反省はあるのか、秋には紅葉もせずに真っ先に落ちてしまいます。飛騨高山では、子供が一枚五円の小遣い稼ぎにこれを拾い集めるらしい。名物「ほおば味噌」の材料です。味噌に砂糖、かつお節、シタケなどをいれて、朴の葉に乗せ七輪で焼く、あれです。朴の葉さえあればお宅でも簡単に

花もデカければ葉もデカい。周りの迷惑を顧みないデカさですが、多少の反省はあるのか、秋には紅葉もせずに真っ先に落ちてしまいます。飛騨高山では、子供が一枚五円の小遣い稼ぎにこれを拾い集めるらしい。名物「ほおば味噌」の材料です。味噌に砂糖、かつお節、シタケなどをいれて、朴の葉に乗せ七輪で焼く、あれです。朴の葉さえあればお宅でも簡単に

花もデカければ葉もデカい。周りの迷惑を顧みないデカさですが、多少の反省はあるのか、秋には紅葉もせずに真っ先に落ちてしまいます。飛騨高山では、子供が一枚五円の小遣い稼ぎにこれを拾い集めるらしい。名物「ほおば味噌」の材料です。味噌に砂糖、かつお節、シタケなどをいれて、朴の葉に乗せ七輪で焼く、あれです。朴の葉さえあればお宅でも簡単に

花もデカければ葉もデカい。周りの迷惑を顧みないデカさですが、多少の反省はあるのか、秋には紅葉もせずに真っ先に落ちてしまいます。飛騨高山では、子供が一枚五円の小遣い稼ぎにこれを拾い集めるらしい。名物「ほおば味噌」の材料です。味噌に砂糖、かつお節、シタケなどをいれて、朴の葉に乗せ七輪で焼く、あれです。朴の葉さえあればお宅でも簡単に





こんにちは、今回初めて森林塾へ参加させて頂いていてます春日清隆と申します。今は森林塾から車で三十分くらい、箕輪町の天竜川の東側に住んでいます。小さい頃に家族みんなで住んでいた、築年数のとても古い家屋を少し直しまして、最近住むようになったのですが、やっぱりいいもんです。古いものですので当然地元の木、土、石などが使われていて百年以上経つのに構造はしっかりしたもので少し傾いてますけど、屋根裏に上ると今ではなかなか手に入らないような立派な梁。黒光りしている太い大黒柱。外壁の土壁。蔵のなまこ壁等。今ではなかなか手に入らない、作れないものを見ると昔の人のすごさに



感心してしまいます。

森林塾への参加のきっかけは、長野県で実施している通称きこり講座に参加して、もっと勉強をしてみたい、他にも教えてくれるところはないのかなとネットで検索。地元でこのような活動をしているこの塾を知りました。そもそもきこり講座への参加のきっかけですが、実家が家業をしていて私は次男、もう少し若い頃は何とか家業の呪縛から逃れたくて色々やってみたものの、現在の結果としては、やはり家業を長男とともにやっているわけ、最後の悪あがきというか、希望の光というか・・・このまま長男とは一生同じ会社でやっていくのは、仲は悪くないのですが難しいと感じてまして、何かないものかと探している時に、きこり講座というものを長野県で実施しているのを知り、受講料は無料だと。これだと思いました。

また、小さい頃によく祖父と行った山の気持ちよさ、いつもいるような苗木を採ってきて庭に植えて、花や芽、実などを樹種も分からずに見て食べて。季節になると、櫛の原木をドリルで開けた穴に家族を山で切り出し、キノコの駒をドリルで打ち込む。その原木をまた山に持って行き場合に収穫。ただ、植林や間伐、枝払いなどの林業は全然記憶にありません。祖父がよく山に行っていたのは知っています。その頃の私は余り山に興味がなかったのです。そして、きこり講座も受け

を終り、では実際はきこりとしての生活はどうだろうときこり講座で講師をしていた人から話を聞いて・・・、厳しい。丁度そのころ結婚というものを意識していた人がいて、その現実を報告したところ、きこりするならば結婚はしないと。私ときこり、どっちを選ぶのかと。そこまで言われてませんけど、まあ決めるのは自分です。から、人のせいにしてはいけません。別のやり方は無いものか。そうか、今の会社で林業を受注し、ゆくゆくは林業部として会社内の別部門を創ればいいんだと思い立ちました。まだ、入り口に立つたばかりですが実現できるかは自分次第。具体的には全然決まってきたてはいないけど。

今年は森林塾と、林業士を取る為の森林・林業セミナーのダブル受講です。講座ばかり受けて、頭でっかちにならないように、家の山に入って予習復習が理想なのですが、上手く行きますでしょうか？今年の仕事も忙しそうなので、しっかりと受講できるか、山に行けるかどうか心配です。これを書いている時点で森林塾は二日も欠席してしまいました。無駄に出来ない内容ばかりなのに。一日目、二日目を受講してみても、早川先生、スタッフの皆さんの知識の深さに驚きました。林業、いや第一次産業というものは結構、動や経験での判断の重要性が高いと思っていたのですが、学問なんです。勉強なんです。経験だけでは分からない、または分かるまで時間がかかるはずの事柄を、こんなにすらすら教えていただいで、半端な気持ちではいけない。果たして私は真剣に聞き、理解し、実践に生かして行けるのだろうか。この塾で自信をつけるどころか無

くしたらどうしよう。と、ここまで書いてみてそんなことで悩むようなキャラではなかった。とにかく山に行ってみることでしょね。山はいつでも待っていてくれる。ただ、講義を受けていつも思う。十年、五十年、百年。こんな時間軸がよく出てくるけど、皆よく気が遠くならないうちよなあ。おじいちゃんは今山の檜、植えたときに子供たち、孫たちがちゃんと手入れしてくれてるって考えて植えたのかなあ。僕が今、山を手入れしても、僕の子供や孫はどんな山にしていくなだらう。結果を見られないかもしれない。皆辛いかな？

とにかく、しっかりと勉強して、実践して、いろんな人と出会って、参加してよかつたって思えるように、来年も参加したいと思えるように。よろしく願いいたします。

コラム

五月に入り田んぼに水がはられ、田植えの季節になりました。

小さな苗が春の風にそよそよとゆれ、かえる達がとたんに合唱を始め、夏の気配を感じます。

でも五月の始めに、遅霜が降りると水温が下がってしまったのか、それまで賑やか

だったかえる達は声をひそめてしまい、生き物は実に自然に敏感なんだなと、あらためて実感してしまいました。

昔は水が入る前の田んぼは、一面蓮華の花でうめつくされていて、子供の頃はよく蓮華の花で花冠をあんまりして、遊んだものですが、今では蓮華の花をみつけるのが難しくなってしまう、懐かしい風景になってしまったことが、なんだか寂しいです。

おわりに

「鷹」

今回の樹木分類は広葉樹だったので、針葉樹の紹介を。

「マツ・マツ・カヤ・モミ・ツガ・トウヒ、ヒノキ・サワラ・アスナロ・コウヤマキ」

どなたかサンバ調に作曲してくれませんか。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994

E-mail:
sh-sakano@koanet.co.jp
ki-hayakawa@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp

